

## ■ 終 章 21世紀への羽ばたき

### 1. 変革へのスタートに立って

バブル崩壊後、わが国経済は2年半余りにわたる長期の景気後退を経て、回復過程に入ったが、そのテンポはきわめて緩慢なものにとどまり、平成9年4月の消費税率引き上げ後は減速局面を迎えている。また、金融面は、バブル崩壊の後遺症克服に努めてきたが、9年には、銀行、証券会社、生命保険会社の破たんが相次いで発生し、金融システムの安定が最も緊急の課題とされている。

一方、高齢化が急速に進展する21世紀において、わが国が豊かで創造的な経済社会を築いていくためには経済活動を支える基礎的なインフラである金融市場の活性化が必要とされている。

こうしたなか、8年11月、「我が国金融システムの改革」と題するいわゆる「日本版ビッグバン」構想が打ち出された。この構想は、フリー（市場原理が働く自由な市場）、フェア（透明で信頼できる市場）、グローバル（国際的で時代を先取りする市場）を3原則として、金融市場を抜本的に改革し、金融の基本的機能である資金仲介機能と資金決済機能を活性化させ、日本経済のさらなる発展を目指すものであった。

具体的には、次の事項を柱とするもので、変革に向けての大きな一歩が踏み出された。

- ① 外国為替専門銀行制度（為銀主義）の廃止、証券投資信託の販売、債権の流動化や持株会社の活用などにより商品・業務・組織形態の自由化・多様化を図る。
- ② 自由化が進むなかで、取引が適正な市場規律のもとで活発に行われるよう、短期金融市場、ディスクロージャー、金融機関などの利用者の保護、会計制度などを始めとして市場・取引のインフラやルールを整備する。
- ③ 不良債権を速やかに処理しつつ、早期是正措置の導入などにより金融システムの健全性の確保を図る。

21世紀を前に、金融界は、市場原理の貫徹、自己責任原則の徹底やグローバル

スタンダード（国際標準）などがこれからの経営における指針とされ、金融環境の急速な変化に伴う「競争と淘汰」の時代に突入したといえる。

個々の金融機関としては、自助努力が何よりも重要であり、①不良債権の処理、②リストラへの対応、③自主的なディスクロージャーの拡充を形で示すことが必要とされている。この意味でこれまで以上に創意と工夫によるたゆまぬ改革に努め、顧客、株主を中心とした市場への真摯な対応、経営の「質」の向上が生存を決する時代になったといえよう。

こうした時代の転機に立った厳しい環境のなかにあつて、当行は、地域の企業を育成・支援するという地域金融機関としての大きな使命を持っていることを忘れず、顧客ニーズに徹底的にこたえるべく、10年4月、第12次長期経営計画をスタートさせ、新たな飛躍を期している。

## 2. 21世紀への羽ばたき —第12次長期経営計画のスタート—

第12次長期経営計画は、期間を平成10年4月～13年3月（1998年4月～2001年3月）の3年間とし、21世紀に向かって経営全般において、顧客、株主、行員の期待にこたえる高い「クオリティー」を追求し、「お客様に強く支持される銀行」を目指している。

そして、わが国の金融機関は、新たな金融環境に向けて積極的に自己改革を遂げていくことが強く求められていることから、質の高い経営体質確立のため、自己革新に努めることを決意、計画を『変革プラン21』と名付け、

- ①経営全般のスリム化・効率化
- ②資産内容の良化
- ③顧客ニーズに合った商品・サービスを提供しうるマーケティング体制の構築

に照準を合わせ、重点的に取り組むことにしている。

そして、次の五つを当行の解決すべき課題として示している。

（高コスト体質の是正）

商品開発・サービス提供の負担増加に対して競争力を維持するため、事務センターの完成により、事務の集中化と機械化をいっそう推進するとともに経費削減を徹底し、高コスト体質の是正を図る。

（マーケティング体制の強化）

データベースマーケティング（顧客情報に基づいた営業活動）による営業力強

化を図り、営業店中心の活動を再検討し、情報・通信技術の進展に伴うデリバリーチャンネル（商品・サービスの提供販路）を再構築する。そして、顧客ニーズの多様化に対応し、かつ効率的なマーケティング体制の充実を図り、リテールを強化する。

（リスク管理体制の強化）

早期是正措置の実施に伴い、信用リスク、市場関連リスク管理の強化など総合的なリスク管理体制の充実・高度化を図る。

（資産内容の良化）

不良債権の処理促進とフォロー体制を強化し、資産内容の健全性向上を図る。

（少数精鋭）

ビッグバン時代における競争に勝ち抜くため、顧客志向のなかで、専門性を持った行員を教育し適材を適正に配置して、少数精鋭を実現する。

上記のような観点に立って、「顧客志向の銀行」・「株主重視の銀行」・「働きがいのある銀行」を経営目標に掲げている。そして、新たな金融時代に対応して、当行の目指す姿を実現するためには、既成の考えにとらわれず、「創造性」を育み発展させる組織運営を実践し、全行員一人ひとりが高い「生産性」・「協力・連携」・「スピード」を行動基準としながら業務活動に取り組むことにしている。

ここに、21世紀を目前にして、120年の歴史に対する誇りを持つとともに、未来に目を向け、全行員が一丸となって、揺るぎない顧客基盤を築き、良質な金融サービスを提供しうる確固たる経営体質を構築することによって「クオリティトップバンク」を目指し、さらに決意を新たにすものである。